

2年次で「職業講話」を実施しました。

◆今号の記事は、2年次の大村先生と矢口先生がまとめてくれました。

4月24日（月）午後、「キャリア教育」の一環として、2年次生が職業に関するお話を聞く機会（職業講話）を設けました。講師の先生のお話の内容を紹介します。

①石川慎之助先生 つくばFC代表

石川先生は筑波大学の理工学群で勉強をしながら、プロのサッカー選手を目指し大学で練習をしていました。しかしプロへの道は難しく、大学院へ進学。進路を模索していた時に、日本は特に中学生がプロの選手につながる環境がないと感じ、つくばにサッカークラブをつくることを決めました。石川先生は、つくばFCを「老若男女誰でもスポーツを楽しむことができるチーム」と特徴づけています。実際に男子リーグの選手が小学生のコーチをしているので、小学生にとっては憧れの選手が身近にいながら、夢を追いかけていくことができます。ゼロからのスタートで、苦労もたくさんあったそうですが、無理だと思えることにチャレンジして創りあげることがやりがいに繋がっていると話されていました。

②高須栄二先生 高須農園経営者

高須先生は大学卒業後、中学校教諭としてはたらき、その後青年海外協力隊に現職で参加しました。その後、高須農園を経営者となり、ブドウ栽培に取り組んでいます。「やりたいことは全部やる。」「QOL（Quality Of Life）=生活の質」や「自分が生きるために欲するものはなんだろう。」などを考えて仕事をしています。現在、3つの顔（ブドウ屋さん・本校講師・協力隊OB）を持ち、それぞれの分野で活躍をしています。農業の良い点や海外輸出や新品種の改良などの農業の未来や発展性など魅力をたくさん話していただきました。中学生にできることは「知識をつける」以外にも沢山あることや、どんな仕事があるかを知ること、自由な発想があれば、新しい仕事もつくっていくことができるのだというメッセージもいただきました。

■2名の生徒の感想文を紹介します。

◆職業に就いている人の考えや思いはそれぞれなんだなあと感じました。仕事は単に、お金を稼ぐためにやらなければならないのではなく、それぞれきちんときっかけがあるということが分かりました。「もともと好きだった」とか「やりたいことを全部やりたい！」など、講師の先生方は理想を現実にしていて、私もそのようになりたいと思いました。まだ私は明確に将来の夢は決まっていなくても、いつか決めるときは、その職業の「良いところ」「苦労」などを理解した上で決めたいと思います。

◆私は自分から積極的に行動することがなく、チャレンジや挑戦することもなかった。しかし、今回の講話を聞いて、自ら行動することにより、今まで自分が知らなかった世界を発見でき、より多くの将来への道ができるのではないかと考えた。私はまだ将来の夢が決まっていないので、できるだけたくさんの職業を知り、その職業の楽しさを知ってじっくりと選んでいきたい。より多くの職業選択の枠ができるよう、まずは勉強を頑張りたい。

